

OB・OG 紹介



広島大学東広島地区運営支援部
教育学研究科支援室学士課程担当
(平成13年度生) 和泉 浩基さん

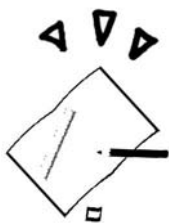
◎ 自己紹介をお願いします。

私は、総合科学部を平成十七年三月に卒業しました。その後進学し、教育学研究科博士課程前期に入りました。その当時はまだ総合科学研究科が設置されていませんでした。

当時、私が卒論を書いていた総合科学部の研究室でそのまま研究をしようと決めた場合、教育学研究科に入学しなければならぬ時代でしたので、研究室は総科にあった状態のまま、教育学研究科の授業を受ける、という形で2年間を過ごし、修了しました。

◎ 仕事内容を教えてください。

私は今、教育学部学生支援室で事務の仕事をしています。正確に言うと、広島大学東広島地区運営支援部教育学研究科支援



室学士課程担当というところで働いています。

私が主に担当しているのは、入試関係の仕事です。入試の広報から始まり、場合によっては入学試験問題の作成補助、願書受付、入学試験の実施、合格者判定、合格発表、入学手続き、といった一連の業務を担当しています。

入試担当ということで、広島大学教育学部の学生さんと接することは入試の実施に際してそれほどありませんが、入試広報に関しては、広島大学説明会・オープンキャンパスの際に学生さんに補助をお願いして一緒に広報をしています。

◎ この仕事を選んだ理由は何ですか？

私は、学生と関わる仕事がしたい、「教育」に携りたい、という思いを目標としていました。就職活動をするなかで、一般企業も広島大学も受験しました。しかし本当に何がしたいのかということ考えたとき、四年間・六年間「大学」というところで生活をしてみて「ここで学生と一緒にやって何かを作っていく、学生の成長を助けていく、そんな仕事ができたらいいな」という風に考えてこの仕事を選びました。これが主な理由ですね。

別の理由もあります。私は学部生の時から体育会のバレーボール部に所属していました。四年間体育会のバレー部でバレーをして、二年間修士の課程にいるときには、コーチという形でバレー部に関わっていたのですが「引き続きできたらいいな」という思いがありました。どうしたら広島大学にずっと在籍することができるだろう、ということ考えた結果、教職員になるのが一番良いのではないかと、という結論に至り

OB・OG 紹介

ました。当時、国立大学の教員というものは出身大学で常勤として雇用されることが非常に厳しい時代であると言われていましたので、職員になつたらずと広大にすることができないんじゃないかと思つて、ここに就職しました。広島大学の事務職員となり、現在は体育会バレーボール部の男子監督を務めています。

◎ 学生時代のエピソードを教えてください。

私は体育会バレーボール部に所属していました。春からバレー部に入って、一年生から四年生までそれに没頭していましたね。私はオリエンテーションキャンプ当日がバレー部の公式戦に当たりまして、キャンプには行かず部活の方に行っていたんですね。勉強よりも部活の方に力を入れていました。勉強に関して話しますと、私はスポーツをしたいと思つていましたので、スポーツに関係する分野をとことん学んできました。当時、超域研究・展開研究という論文作成とポスター発表をする授業科目がありました。それもスポーツ関係でした。

三年生の後期からの研究室もスポーツ関係の分野に配属されました。健康スポーツ科学と表象制作学、人間存在基礎学が組み合わされた人間科学プログラムに在籍していたのですが、プログラム内で他の授業を取ったのも非常に良い経験になったなと思います。

当時から教育学部の授業も取っていましたので、登山の実習に行ったりとか、コーチングに関する授業を受けたりとか、「学部を超えていろんなことを学べた」のは自分の中ですこ

くよかつたなと感じます。

◎ 学生時代で後悔していることやうれしかったことは？

後悔していることは部活に専念しすぎて、それ以外のことをあまり経験できなかったところ。特に幅広い人間関係を作るといった意味で、いろんな分野の人がいるという総科の環境の中でその人たちと多く交流できなかったのは一つ後悔しているところかなと思います。

あとは、アルバイトとか社会貢献をすべきだったな、と気になっていました。四年生の時に就職活動をせず進学しようと思った一つの理由は、大学院に進学すると現役として部活の試合に出る機会がなくなるので、ある程度時間ができたらうと考える、学部生の時にできなかったことをしよう、と決めたことでした。整形外科でリハビリテーションに関係するようなアルバイト、ボランティアで小学校のスポーツ少年団の指導など、学部生のうちにできなかったことを大学院生になってたくさんできました。そういった面で、総じて満足した学生生活を送りました。

◎ 総合科学部を選んだ理由は何ですか？

私は「教育」に携わりたいと考えてはいましたが「学校の教員」にはなるまいと考えていました。高校の時の部活の先生をすごく尊敬していて、こんな風になりたいなと考えていたのですが、自分の中で、その憧れと同じ方向に進むということがなかなか想像できませんでした。凄さがわかるからこ

OB・OG 紹介

そ、自分としては別の方向で追いたいと感じていたのかもしれませんが。そう考えた時に、教育学部に行く、「教員」という視点が入ってくるので、違った視点から教育に、特に「スポーツに関連した教育」を考慮して学部選びをしたのかもしれませんが。

◎ どのような面で仕事のやりがいを感じますか？

仕事に関して、大学という環境について見てみると、だいたい十八歳から二十二歳までの学部生がいて、彼らは在学中に成人の壁を越えます。そこで起こる周辺の変化を感じるものが多くあります。

そこで、子供の状態から大人の状態へと成長し、学年が上がることで「与えられる側から与える側へ」役割が変わる成長を間近で見ることができ、ということが、大学教育に携わる中で大きな喜びかなと思います。

◎ 総合科学部でよかったと思うことは何ですか？

決まったルールが敷かれていない、というところが一番良いと思っています。だいたいこの授業を取っていればこの就職先に就く、というものがありません。自分が意思決定し、この道でがんばろうと決めることで進路が開けていきます。こういうところが総合科学部ならではの、だと思います。だからこそ、総科生というのは他の学部と比べているようなことにチャレンジする能力に長けている、そういう意識を多く持っているように感じます。

自分で動くという認識が当たり前に存在している。人と一緒に動くという認識が当たり前に存在している。人と一緒に動くという認識が当たり前に存在している。人と一緒に動くという認識が当たり前に存在している。

◎ 総合科学部学生へのメッセージをお願いします。

抽象的な表現になりますが「挑戦」してほしいなと思います。リスクを恐れず挑戦してほしいです。何もしなければリスクは少ないでしょう。取れる授業だけ取っていれば確実にリスクは少ないでしょうけれども、やはりリスクを冒さないと得るものは大きくならないことに気づいてほしいです。何かを成し遂げなければ、それだけ自分の身を厳しいところに置かなければならないのです。そういう気持ちでチャレンジして欲しいです。

担当 27生 小川 真里奈

清丸 岐

堀田 悠輔